

NPO法人 熊本まちなみトラスト
第31回理事会(190722)出欠表

氏名	理事会 190722 出欠	出席 人数	委任 出席 人数
1 青木勝士	○		
2 麻生田栄壽	○		
3 伊藤重剛	○		
4 磯田桂史	○		
5 磯田節子	○		
6 岡裕二			
7 工藤栄一郎			
8 幸田亮一	× 事務局長		
9 西郷正浩	○		
10 柴田祐			
11 竹田宏司	○		
12 田中尚人			
13 鄭 一止(いるじ)	○		
14 辻 泰明	○		
15 豊永信博	○		
16 長野聖二			
17 西嶋公一			
18 富士川一裕	○		
19 藤本秀子	× 事務局長		
20 松波大仁	○		
21 宮野桂輔			
22 宮本茂史			
23 矢野和之	× 理事長		
24 山田穰	○		
25 吉野徹朗			
1 荒木幸介			
2 齊藤修			
会員(コア会員)			
1 本田憲之助			
2 森 純子			
3 両角光男			
4 上野美恵子			
5 上農淑子	○		
6 清水照親			
7 坂口秀二			
8 西島衛治			
9 西島真理子	○		
10 早川祐三	当方からのメール届かず		
11 松崎範子			
12 清永泰弘			
13 古賀元也			
14 濱田康成	当方からのメール届かず		
15 中田浩毅			
16 東久美子	当方からのメール届かず		
17 伊原登志郎			
18 石原靖也			
19 佐々木翔多			
20 反後人美			
21 三國隆昌			
22 池田由美			
23 黒瀬商店			
24 田中達俊			
25 原野利一			
26 高田真人			

本日の協議事項

①企業への呼びかけ文書

②今年度活動と部会編成

◆報告事項

◆前回(6/24)例会以降の経過

7/3KMT事務局会議【富士川・松波・辻・菊池】
以降7/10、7/17

6/25 被連協清永部会(85回)【磯田桂史・富士川】
以降 7/2(86回)、7/9(87回)、7/16(88回)
7/10美術・工芸品の維持管理に関する検討会
県大図書館で青木理事←事務局:富士川・松波・辻

旧住友支店

7/8連絡協議会

5/16熊本市へ要望書提出

→フォロー:7/22竹田部会長の動き

7/11復興イベント打合せ@PS別館

認定NPOにむけた取り組み

7/1あいぽ-とでの説明会【松波出席】

7/18熊本市地域活動推進課に相談【松波・富士川】

今年度はムリだが次年度以降可能性アリ

復興イベント企画、事業推進

イベント①on the明八橋

7/10早川倉庫訪問

五福まちづくりの会と一新まちづくりの会へ呼びかけ

イベント②PS+カーリーノ

前掲

その他

7/2火の国会議 於:県総合福祉センター(南千反畑町)

【松波、辻出席】 トラストからも近況報告

被連協アンケートの準備(事務局)

情報誌(定期刊行物)の準備

7/15編集者打合せ→7/17事務局会議で検討

◆今後の予定

視察受け入れ

7/27山鹿建築士会(ヘリテージM候補)

8/11聖心女学院(岡崎先生+学生6人)

理事 13 (+委任状出席3 = 16 > 理事総数25)
 会員 2
 合計出席者 15
 プラス事務局員1 = 16人(予定)

NPO法人熊本まちなみトラスト (KMT)

の活動実績と未来への目標

熊本まちなみトラストは、「記憶の継承」を基本理念として1997年に設立し、熊本の近代化遺産、新町古町地区の町屋の保存活用に取り組んできました。平成28年熊本地震で壊滅的な打撃を受けたそれらの文化遺産の創造的復興を応援するために2017年5月にはNPO法人の認証を受けました。

この冊子は、熊本まちなみトラストのこれまでの活動の実績を踏まえ、未来に向けた活動の目標を明らかにすることを目的としています。ご高覧いただき私たちの活動にご賛同いただければ幸いです。

目次

1. 1997年設立後20年間の活動実績／P2
2. 2017年NPO法人設立後の活動実績／P8
3. 未来に向けた活動目標／P11

20年間の活動と成果

PSオランジュリを初めとする**近代化遺産**の保存活用
ペロタクシーや河原町プロジェクトなど**若者文化**の育成
新町古町の町屋調査と**町屋体験**等の町屋の利活用



活動から得られた知見

近代化遺産や城下町は**コミュニティの絆**となる
近代化遺産や城下町は**観光資源**になる
近代化遺産や城下町の
リノベーションという取り組みは**世界の潮流**

外からの評価

- 2006 日本建築学会から受賞
- 2015 「熊本の近代化遺産」
熊日出版文化賞受賞
- 2017 WMF ワールド・モニュメントファンド
とのパートナーシップ契約

NPO法人化

平成28年熊本地震

城下町の
創造的復興

熊本城は残っても
城下町が
消滅するかも
しれない

という危機感

現在位置

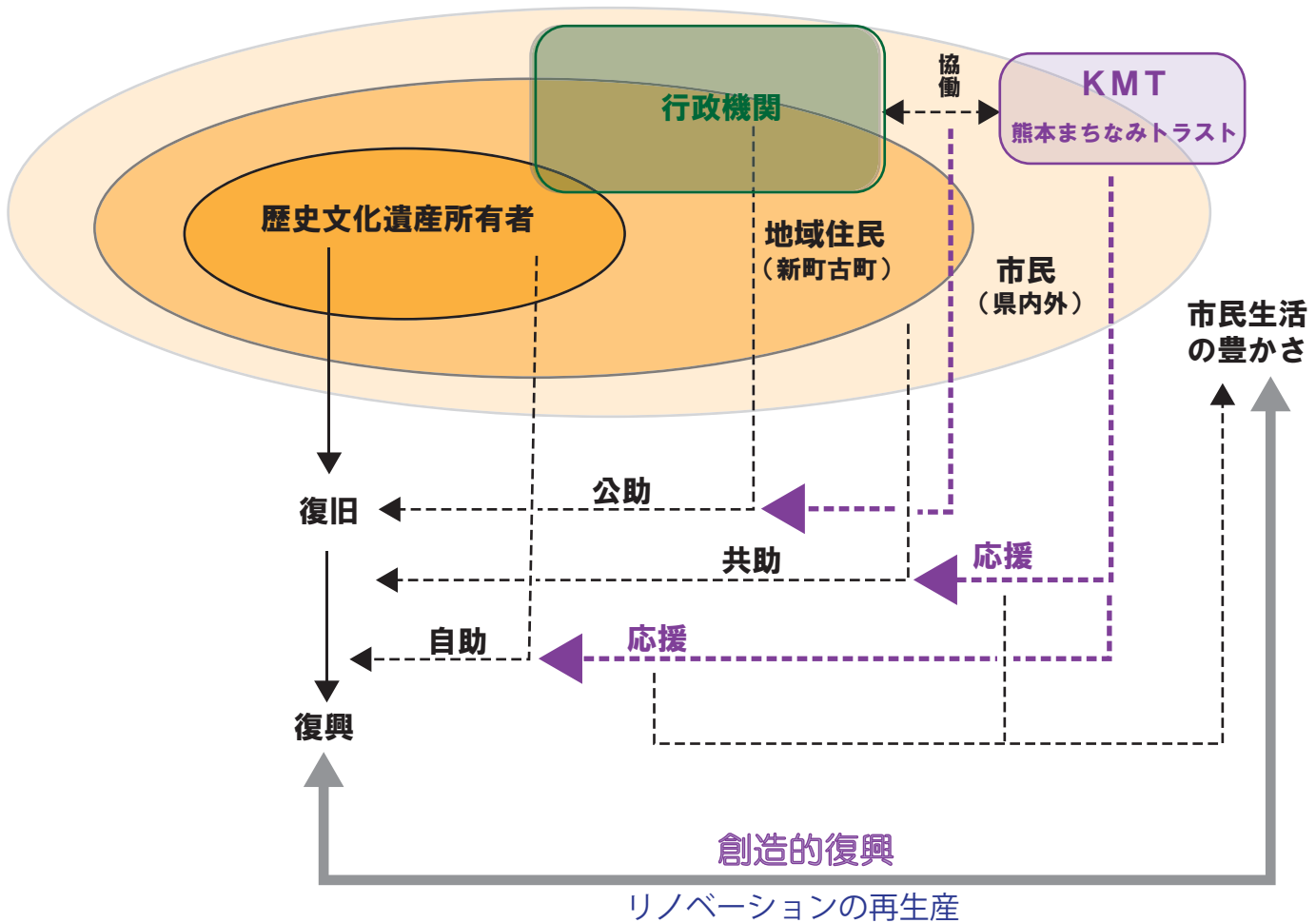


今後の活動 方向づけ

地域の持つ文化的歴史的特性を活かして
街の活性化を図る (KMTのミッション)
駅都心間をつなぎ今後の城下町をつくる
新町古町地区をモデル地区として取組む

KMTの未来に向けた活動目標

熊本まちなみトラスト



【未来に向けた活動目標】

新たな転入者や若い世代は「街の記憶」を共有することが難しい。一方、新町古町をはじめとする歴史ある街には伝統を活かす新旧の事業者が息づき、まちの景観と共に未来のコミュニティにとって魅力的な要素となっている。そのような環境に熊本まちなみトラストの活動が加わることで新旧住民の「記憶の継承」が促進され、地域住民のコミュニティの絆とともに**地域資源の観光客への訴求力が強まる**。

熊本まちなみトラストは、地域住民の意識と地域の空間に新しい価値が創出され、リノベーションが再生産されるという好循環を生み出すことを活動の目標とします。

(補追) 都市は人間社会と同じように赤ん坊（新しい建物）から高齢者（古い建物）までの各世代が尊重され生きつづけることでイキイキとした生活が営まれる。熊本まちなみトラストが関わる近代の歴史的・文化的遺産は、少し昔（半過去）の文化遺産であり現在の生活環境に至る経路がたどりやすいので、都市や地域の「記憶の継承」を助けることに大いに役に立つ。熊本地震からの復旧・復興の経験は、個々の近代化遺産の持つファミリー・ストーリーが集まって地域の歴史が紡がれていることの再発見であった。その経験を熊本まちなみトラストの未来の活動に活かしたい。

NPO法人熊本まちなみトラスト役員名簿

2019-07-16 現在

役職名	氏名	プロフィール
理事	あおき かつし 青木 勝士	県庁・熊本県立大学地域連携政策センター／日本中世史(古文書)／被災史料レスキューネットワーク参画
理事	あそだ えいじゅ 麻生田 栄壽	不動産鑑定士／熊本県鑑定士協会会長時代には協会の公益社団法人化に尽力／趣味はバイク・車
理事 理事長	いとう じゅうこう 伊藤 重剛	熊本大学名誉教授／専門は西洋建築史／地震後ワールド・モニュメント財団申請に尽力
理事	いそだ けいじ 磯田 桂史	熊本大学五高記念館客員教授／公務員退職後崇城大学に勤務し、熊本の近代建築史に取り組む
理事	いそだ せつこ 磯田 節子	元熊本高等専門学校教授／専門は都市計画・建築計画／熊本初のコーポラティブ住宅に参画し住む
理事	おか ゆうじ 岡 裕二	舩ワークス主宰／専門は地理学／まちづくりコンサルタントとして各地の調査・計画に参画／川尻在住
理事	くどう えいいちろう 工藤 栄一郎	西南学院大学商学部教授／専門は会計学・会計史／新町古町で現代の町屋に暮す
理事	こうだ りょういち 幸田 亮一	熊本学園大学商学部教授／専門は経営史／現在同大学学長／共編著「熊本の近代化遺産」出版に尽力
理事	さいごう まさひろ 西郷 正浩	崇城大学工学部教授／専門は建築設計・計画／旧JR上熊本駅舎の保存に尽力
理事	しばた ゆう 柴田 祐	熊本県立大学環境共生学部教授／専門は農村計画・景観計画／熊本地震後益城町西原村等で活動
理事 副理事長	たけだ あつし 竹田 宏司	専門は埋蔵文化財／現在玉名市勤務／熊本地震後新町古町復興プロジェクトに参画
理事	たなか なおと 田中 尚人	熊本大学熊本創生推進機構准教授／土木史・景観論／熊本地震後益城町・山都町等で活動
理事	ちよん いるじ 鄭 一止	熊本県立大学准教授／専門は都市計画・まちづくり／新町古町のまち再生のための調査研究実施中
理事	つじ やすあき 辻 泰明	熊本大学で熊本地震総合調査に従事／水前寺や宇城市三角町で地域遺産を活かした地域活動に参画
理事	とよなが のぶひろ 豊永 信博	熊本市所役勤務時代は合併推進に尽力／地震後県内各地を調査・活動／中心市街地の復興にも尽力
理事	ながの せいじ 長野 聖二	建築家／アートポリス推進賞等受賞多数／事務所は河原町／地震後新町古町復興プロジェクトに参画
理事 事務局長	ふじかわ かずひろ 富士川 一裕	都市計画家／(株)人間都市研究所代表／まちなみトラスト事務局長／新町古町復興プロジェクト副代表
理事	ふじもと ひでこ 藤本 秀子	熊本大学五高記念館勤務／まちなみトラストの前身古町研究会事務局／草月流の華道歴も長い
理事 広報部長	まつなみ だいじん 松波 大仁	現役時代は企業の経営企画・営業部門で海外担当／英国駐在経験有／業務システム設計・改革を経験
理事	みやの けいすけ 宮野 桂輔	高木富士川計画事務所勤務／小沢町の事務所と住まいが激しく被災／新町古町復興プロジェクトに参画
理事	みやもと しげひと 宮本 茂史	新町の建設会社勤務／新町古町・町屋研究会会長／地震後新町古町の町屋の復旧に尽力
理事	や の かずゆき 矢野 和之	日本イコモス国内委員会事務局長／地震後調査団を組織し県内各地を調査しすばやくアピール文を公表
理事	やまだ みのる 山田 穰	元東海大学准教授／専門は都市計画・造形デザイン／昨夏の復興事務所運営に尽力
理事	よしの てつろう 吉野 徹朗	カメラマン、ライター、web 制作／炊き出しスタッフと新町古町復興プロジェクトを立ち上げ現在事務局長
監事	さいとう おさむ 齊藤 修	弁護士／事務所は草葉町／任意団体設立当初から当団体を支援
監事	あらき こうすけ 荒木 幸介	公認会計士／事務所は新屋敷／任意団体設立当初から当団体を支援

現状
活動体制

歴まち部会【伊藤】

被連協
清永部会【富士川】

住友部会【竹田】

アーカイブ部会【辻】



活動体制
部会再編案

歴まちネットワーク部会

歴まちネットワーク班

清永部会班

カリーノ魚屋町ビル班

研究部会

アーカイブ班

県大 GP 班

財務・組織強化部会

広報部会【松波】

■応募の内容（この助成によって行う活動の内容）と助成希望額

（１）活動のテーマ（25文字以内）とキーワード（４つ以内）

<p>（活動のテーマ） 新町古町地区の復興まちづくり</p> <p>（キーワード） 被連協（#被災 #文化遺産 #所有者等 #連絡協議会）</p>

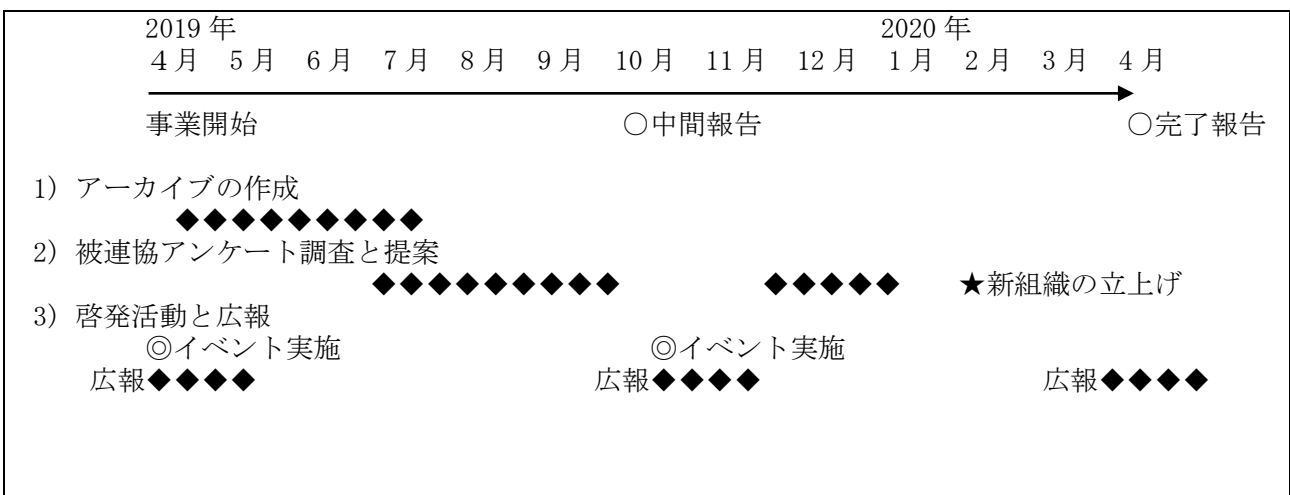
都道府県	熊本県	市区町村	熊本市	地区	新町古町地区
------	-----	------	-----	----	--------

（３）活動の内容とスケジュール

①助成活動の具体的な内容（項目を立て、手法や工夫点なども含め、具体的な内容を簡潔に記載してください。また、活動を実施する体制や活動の準備状況などがわかるように記載してください。）

<p>1) アーカイブの作成 熊本地震（2016（H28）年4月）から1年目の2017年夏に被災文化遺産の解体がピークを迎え、2年目の2018年夏には規模の大きい被災文化遺産の修復工事が着工、3年目の2019年の春から秋にかけてそれらの工事が完了を迎える。2016年11月に新町古町地区の被災文化遺産所有者25名で設立された連絡協議会（事務局＝熊本まちなみトラスト）が3年目を迎える2019年までのアーカイブ（復旧・復興の記録）を作成し、今後の活動のための基礎資料とする。</p> <p>2) 被連協に対するアンケート調査と提案 被連協構成員の中にはやむをえず建物を解体したところ、火事で焼失したところ、いち早く復旧工事を完了し営業再開したところ、現在復旧工事中のところとさまざまであるが、2019年には状況が一段落する。そこで、アンケートや聞き取り調査を実施し、連絡協議会が次のステップへ移行するための組織のあり方に関する提案を行う。</p> <p>3) 啓発活動と広報 地震から3年目に当たる2019年4月と同年秋に啓発イベントを行い、同協議会の構成遺産が地域の観光資源として地域住民に支持され、城下町の歴史を活かしたまちづくりが将来ビジョンとなるよう地域住民の意識の共有化を図る。そのためには、協議会のみならず地域住民のイベントへの参加を促し、地域を越えて観光客へも情報発信する。 2018年1月の新町古町復興イベント、4月の被連協シンポジウム、12月の清永本店寄付金贈呈式はいずれも、熊本まちなみトラストが主催団体となり、被連協、一新・五福の両校区自治協議会、新町古町復興プロジェクトと連携して取り組んでいる。</p>

②助成活動のスケジュール（「活動の具体的な内容」の日程をわかりやすく記載してください。）



申込書

(9) 助成希望額

◆財団助成金希望額 (120万円を上限としますので、合計はその範囲内としてください。)

費目	内容	金額 (円)	費目合計 (円)
人件費 ^①	アルバイト人件費 1,000×延316時間・人	316,000	316,000
	詳細別紙		
事務局諸経費 ^②	光熱費・消耗品費等 (管理費の分担)	200,000	200,000
旅費・交通費 ^③	交通費@500×54人・回	36,000	36,000
会議費 ^④	会場費：@10,000×5 消耗品費 20,000	70,000	70,000
実施活動費 ^⑤	消耗品費、郵送費	36,000	36,000
	詳細別紙		
印刷製本費 ^⑥	資料作成費、アンケート票印刷費、報告書作成費	155,000	155,000
	詳細別紙		
謝礼・委託費 ^⑦	アドバイザー謝金等、交流イベント設営及び地元食材によるおでん制作委託	296,000	296,000
	詳細別紙		
その他 ^⑧	地域交流会参加交通費+活動報告会参加交通費 ^⑨	100,000	100,000
合計		㉑1,200,000	

◆財団の助成金以外の資金

自己資金 ^⑩	400,000	
補助金等 ^⑪	0	
借入金 ^⑫	0	
その他	0	
合計	㉒	

◆助成対象活動に関する総事業費

総合計	㉑+㉒	1,600,000
-----	-----	-----------

(凡例)

- ①人件費：助成対象活動に関わるメンバー（実施担当者・事務局）およびアルバイトなどの人件費。団体の経常的人件費は含まれません。
 ②事務局経費：助成対象活動に関する家賃、光熱水費、通信費、文具等の消耗品購入費など
 ③旅費・交通費：助成対象活動に関する交通費、宿泊費など。ガソリン代や団体スタッフの経常的交通費は含まれません。
 ④会議費：助成対象活動のための会議、学習会、ワークショップ、見学会、イベント等の開催費など
 ⑤実施活動費：助成対象活動を行うための資料の購入費など助成対象活動の実施に必要な直接的な費用など
 ⑥印刷製本費：助成対象活動を行うための資料、成果物等の作成及び印刷費など
 ⑦謝礼・委託費：専門家や外部協力者への講師謝礼、委託報酬費など
 ⑧その他：①から⑦に該当しない経費など
 ⑨地域交流会参加交通費+活動報告会参加交通費：活動地が関東甲信越、中部、関西地方は、70,000円、その他の地域は100,000円を計上してください。
 ⑩自己資金：活動団体自らの資金を充当する場合は、その金額を記載してください。
 ⑪補助金等：財団以外からの補助金、交付金等も活用して活動・事業を行う場合、その金額(予定を含む)を記載してください。
 ⑫借入金：金融機関等から資金を借り入れて活動・事業を行う場合、その借入金額(予定を含む)を記載してください。
 なお、「人件費」と「事務局諸経費」の合計金額は、財団助成金希望額の50%未満とします。
 また、パソコンなどの耐久消費財の購入費は対象となりません。
 財団の助成金以外の資金は条件ではありません。財団の助成金だけで賅う事業でも結構です。

(申込書は記載後よく見直してください)